

## 石棺が群集する集団墓地

### 赤羽根古墳群

成羽川を見下ろす落合町阿部の丘の上に、古墳時代の石棺や人骨(西暦四〜五世紀頃)が多数発見される場所があります。「赤羽根古墳群」と呼ばれるこの周辺で、これまでに石棺や人骨が発見されたという記録や伝承をたどっていくと、三〇体ほどの数にのぼります。記録を残さず消滅したものや、未発見のものも考え合わせれば、相当な数になるでしょう。これらの石棺は、板石を組み合わせてつく



赤羽根 8号石棺 (昭和55年調査)  
頭を赤く塗った男性人骨が出土した。  
(写真・岡山県古代吉備文化財センター提供)

った簡略なもので、箱式石棺と言います。床には小さな川原石を敷き詰め、棺内や頭蓋骨をベンガラ等で赤く塗ったものもあります。長さ一八〇センチ、幅四〇センチほどで、ちょうど大人が寝て入れるくらいですが、中には長さ一〇〇センチ前後のものもあり、子どもと同じように石棺に葬られたようです。棺内には一五〇年以上の時を経ながら人骨がよく残っています。死者にそえられた品(副葬品)はほとんどありませんが、鉄剣や勾玉が出土した石棺もあります。

平成一四年、工事中に偶然発見され、発掘調査された赤羽根イナリ古墳には、五つの石棺がありました。特徴的なのは、それら五棺を覆うように直径一四センチの円形の盛り土がなされ、周囲に葺石と呼ばれる石を並べていることです。付近にたくさんある石棺の中で、この五棺は同じ盛り土(墳丘)の中につくられており、また幼児用とみられる小さな石棺

も含むことから、家族など近親者の墓と考えられます。この古墳は、調査後古墳公園として整備し保存されています。このような集団墓地をつくったのは、どんな人たちだったのでしょうか。広島県に源流をもつ成羽川は、吉備高原に深い谷を刻みな



赤羽根イナリ古墳(市指定史跡)  
コンクリートの枠の中に石棺が保存されている。

がら高梁市内を東流し、高梁川に合流します。流域は河岸に迫る険しい山並みが続く中で、落合町阿部地区には比較的なだらかな平地が広がっています。この平地には古くから人々が定住しており、農業、漁業を営むとともに、成羽川、高梁川の交通にも深く関わって、大いに力を発揮したのでしょうか。

(文・社会教育課文化係長 尾上元規)

編集と発行(毎月15日発行) 高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。